

『友よ』 ——連載開始にあたりまして

赤神 諒

戦国という狂気の時代に生まれ落ちた若者たちが、短い人生を完全燃焼して、終える——。本来は悲劇的なその姿を、せめて爽やかに描けないか。

そんな〈青春群像劇〉の主人公は、長宗我部信親。

時は、平和と幸せにあと少しで手が届きそうな、戦国末期。

土佐の英雄、長宗我部元親の嫡男として生を享けた御曹司の順風満帆な人生は、異郷の川の辺で突然、終わります。明治文豪の心をも揺さぶった22年の生涯は、実はあまり分かっていません。

そこで本作品では、歴史エンタメ小説として信親の幼少期から大胆に物語を創作し、故郷の土佐はもちろん、讃岐、阿波、そして豊後を舞台に、〈長宗我部が最も輝いていた時代〉を描き切ります。

たとえ短命であっても、清冽な川の流れのように「生ききった」と言い切れはしないか。駆け抜けたその人生で、肝胆相照らす友と出会い、最期の時に大事な何かを、誇れる何かを胸に抱けたのなら……。

本編で最大最後のクライマックスは、もちろん戸次川の合戦。

私のライフワークである〈大友サーガ〉第7弾・番外編でもあります。

戦国青春小説、どうぞお楽しみくださいませ。

物語の中盤のクライマックス、阿波国・中富川



物語のラストを飾る豊後国・戸次川